

仕事と子育てを両立でききる環境づくり

日本一健やかに子どもを育む山梨では、子育ての不安や負担を軽減するさまざまな取り組みを行っています。今年4月からは、子育て世帯の仕事と子育ての両立を支援するために、全国で初めて、県内全域での病児保育の広域利用を開始しました。



県内どこに住んでいても 病児保育施設を利用できます

女性の社会進出に伴って、結婚・出産後も働き続ける女性が増えていきます。特に育児休業明けに1〜2歳児を保育所に預ける世帯が増えてきています。

県では、子育て世帯を支援するため、県民を対象とした「子育て環境に関するアンケート」を実施しました。その結果、「子どもが病気のとき」に最も負担や不安を感じ、「病児・病後児保育の充実」を求める声が多いという実態が明らかになりました。一方、病児・病後児保育は市町村が主体であるため、施設がある市町村にお住まいの方だけに利用が限られていました。そこで、県内の全市町村に協力していただき、協定を締結し、県内全域での利用を可能としました。



子育て支援課
古川 清美 主査

これにより、今年4月から、県内にお住まいの小学6年生までのお子さまが、全ての病児・病後児保育施設の利用ができるようになりました。利用する場合は、医師の診察を受けてからとなります。また、事前の登録や利用料金なども各施設により異なりますので、詳しくはお住まいの市町村の保育の窓口にお問い合わせください。



げんきキッズクリニック「ドリーム」(昭和町)

子どもたちの体調に合わせて仕切られている、個別の病児・病後児保育室。保育士さんが常に見守っている(右上・左)
写真にコメントを添えて、子どもの一日の様子を保護者に伝えている(右下)



医療と保育の場を集約し 安心して預けられる保育環境

子育て支援は、子どもとそのご家族を主体に、周りがそれを取り巻きながら集約化を図ることが大切だと考え、13年ほど前に小児科のクリニックと保育園、そして病児保育室・げんきキッズクリニック「ドリム」を併設しました。医師、看護師、保育士、栄養士というそれぞれの専門性を持つスタッフが「子どもを中心に、ご家族の心と体を元気にする」という思いでやっています。

初めは病気の子どもを預けることに、ためらいや不安を感じる保護者の方にもいらっしゃるかもしれませんが、子ども様子の様子を見ていますと、保育士



げんきキッズクリニック 院長 宮本 直彦 さん

共働きのので、広域利用ができて助かっています

町外に住む私たちも、小児科の先生や看護師さん、保育士さんがいてくださるこちらの施設を利用することができます。お迎え時に看護師さんから、子どもの一日の様子について説明していただけるのも安心感につながっています。



さんたちが手厚く接することで案外早く慣れてきます。そばで見守ってくれる人がいると、子どもはそれが分かって安心するのです。今ではクリニックに診察に来た子どもが、病児保育に行きたがるほど人気があるんですよ。

私は小児科医として、常に自分のできる限りのことをやっていたと思うのですが、子どもは急に具合が悪くなることも多いですから、病児・病後児保育を、仕事と子育てを両立するための「お守り」のように思っていたら、いざという時は、どうぞ安心してご利用ください。

県内の病児保育施設 位置図



- 病児・病後児 対応型(10施設)
 - ▲ 病後児 対応型(5施設)
- 【病児】容態の安定している病気の子ども
【病後児】病気は回復しているが、感染症などの理由から登園できない子ども

安心して仕事と子育てができるようになりました

家からも勤務先からも来やすい場所なので利用させてもらっています。病児・病後児保育施設があるおかげで、出産後も早く職場復帰でき、欠勤も最小限で済んでいます。子育てしやすい環境があることで気持ちにも余裕が生まれました。



山梨県の子育て支援

第2子以降保育料無料化

県内全市町村で第2子以降の保育料を、3歳になるまでの間、無料化しています。
※認定は市町村で行います。詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

やまなし子育て応援カード

県内の18歳未満の子ども、妊婦及びその同居の家族が、全国の協賛企業・店舗で「やまなし子育て応援カード」を提示すると、各種割引や特典サービスを受けることができます。カードはお住まいの市町村で交付してもらえます。



やまなし子育て

対応施設について詳しくは

山梨 病児保育